

体験学習をどうぞ 080

2023.4.10(月)

【公立高校入試対策：中学2年数学】

1次関数

速さの問題(第2回)

1次関数の利用、「速さ」の問題をかじっております。

速さの問題(1) 進むだけの問題

まずは、基本として「進むだけの問題」です。
一人が進む分には、途中で速さを変えていっても
それほど複雑な問題にはなりません。

ところが、もう一人が問題に登場してくると…
事態は、俄然と紛糾してまいります。
速さの違う2人が同時にA地点を出発すれば、
当然、目的地に到着する時刻は違ってきます。
ここに目をつけたやつがおるんですねえ！
「速さが遅い人は、速い人より
何分遅れて目的地に到着しましたか」
などという問題を作っとる。

生徒A子：「そなん、易しいでしょ、
距離と速さを使ってかかった時間を求め、
その差を求めればいいのでしょ？」
と、簡単にはゆかせないのがやつの”ねらい”でして…
速く進む人は、最初は歩いて行き、途中から
こともあろうにバスに乗って目的地まで行くんですよ。
生徒A子：「う～っ！
状況が、いまいち、よくつかめませんが…」
そうですね、では、問題を見ていただきまホ！
プリントNo.34s【2】の問題です。

2人が同時に動く問題というのは、いわゆる”ダイヤグラム”の問題の基礎になります。
1次関数の速さの到達点はこのダイヤグラムの問題です。
その頂点をめざして、今、そのスタートラインに立ったところです。
ここは”りき”をいれて頑張る部分です。
いいですね、A子くん！
生徒A子：「ほ～い！」

…！！？

グラフの傾き(速さ)がなくて、距離が求まるの？

プリントNo.34s【1】の問題は、もっといじわるです。
走ったときのグラフの傾き(速さ)を求めるデータが与えられていません。
だから、この走ったグラフだけを見ても、この問題は解けません。
視野を広げます。
走ったグラフに連続している歩いたときのグラフを見ます。
このグラフの式は前の問題で求めています。
これを利用すると、走った距離を求めることができますが…
この発想はかなり難しいです。かかわりのないところに、かかわるわけですから…

生徒A子：「歩いたときの式を使って、
走った距離を求めにやいけんなど…
”超ひきょうな”」
はい、超ひきょうでも、解かないと、点がもらえません。
解くしかないです。
プリントNo.34s【1】(3)の問題です。

…と、おどしておいて、
さて、発展問題へと入りますか。
生徒A子：「う～ん、
ちと、帰りたいところもちも…」
あっ、帰らないで…
やさしく教えるからさ！



中2数学・1次関数 No.34s

3 速さの問題(その1)

体験学習

■ 進むだけの問題(発展問題) ■

★スマホの機種によっては、体験学習へのリンクができないものがあります。その場合には、PCでご覧下さい★

■演習問題は、数専ゼミ・山形・東原教室で個人指導を受けることができます■

■「中2数学・1次関数」★ 学習計画書 ★

(ブラウザのバック矢印でこの文書に戻ることができます。)

入試の1次関数に強くなる数専ゼミの関数指導

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp